

季
刊



KIKAN
KADENSHA
vol.12
2018/8/1

赤ちゃんの時期に何を体験するか？

2歳未満の赤ちゃんのための演劇があります。セリフも筋書きもありません。理解出来るのか？ という疑問はナンセンスで、赤ちゃんたちは演者のパフォーマンスに嬉々として反応し、積極的に関わってきます。今、子育てのアイテムのひとつとして注目を集めています。

人は乳幼児期の6歳までに感情をコントロールする性質が決まってきます。ですからそれまでに何を体験するかがとても大切なのです。その時期にどんな環境で育ったか？ 触覚、嗅覚などが鋭敏な時期に何に触れたか？ その体験を豊かにする作品づくりが、日本でも十数年前から見られます。個別に試行錯誤されてきましたが、それを理論化、予算化してもっと広めようと始めたのが「ベイビーミニシアター」です。演者と赤ちゃんのコミュニケーションが重要なので、観客は多くて20組程度。普及の難しさはあります。けれど大掛かりな場の設えは不要で、靴一つで全国に持って行けるのがウリです。一緒に体験したお母さん、お父さんが、この体験を持ち帰って子育てに活かして欲しい。そんな想いで作品をつくっています。

太田 昭 (演劇プロデューサー／児演協理事)

芸術体験ひろば2018

劇場ではない花伝舎だからこそその価値

2018年5月5日

会場=芸能花伝舎

主催=芸団協、花伝舎入居15団体、新宿区(文化体験プログラム)

企画協力=実演芸術関係24団体、東京青年会議所新宿区委員会

出店協力=西新宿商店会、西新宿みのり商店会、元淀商店会、東京土建新宿支部淀橋分会

毎年5月5日に開催している芸術体験ひろば。今年も、芸団協会員団体や地域の皆様の協力のもと、幅広い年代の方々に楽しんでいただく計37プログラムを実施しました。

この日、一番小さなお客は、『ベビーミニシアター』にお迎えした、0歳の赤ちゃんたち。音や声、演者の動きに、赤ちゃんたちは瞬間的に反応します。「こんなに集中している顔は初めて見た」と驚く親御さんも。赤ちゃんが日常で芸術的な感覚を養うには、お父さんお母さんの役割はとても重要。プロの演者と過ごしたこの体験が、お家に帰ってからの赤ちゃんとのスキップのヒントになればと願います。

少し年齢が上の子どもたちは、『音でつくる物語ワークショップ』で、プロの舞台音響家と俳優と一緒に朗読劇の創作に挑戦。どこにどんな音を入れるか、一人ひとりの感性が際立つ一回限りの上演。真剣な顔が印象的でした。舞台音響家という表からは見えない仕事に、子どもたちも魅せられたようです。

芸術体験ひろばは、ステージで上演するだけではない実演芸術の魅力を、様々な形で子どもたちへ伝える場。子どもたちのいろんな表情から、あらためてその価値を再確認しました。



ベビーミニシアター「マ・ブニュ・ンカ!」

終演後には珍しい楽器に赤ちゃんたちも飛びついていました



「音でつくる物語ワークショップ」
グラスハーブで即興的につくる響きも
朗読のアクセントに



地元商店会の皆さんによる出店で、校庭も大にぎわい

街の魅力をトータル発信！ 東京アート&ライブシティ プロジェクトが始動

日比谷、銀座、築地。実はこのエリアには、能楽堂、歌舞伎座、ミュージカル、クラシック音楽、宝塚、ライブハウスなど、さまざまなジャンルの上演施設があることをご存知ですか？ そればかりか、ギャラリーや映画館が軒を連ね、ショッピング、グルメとあわせて、伝統から現代まであらゆる日本文化にふれることができる一大エンターテインメントエリアなのです。

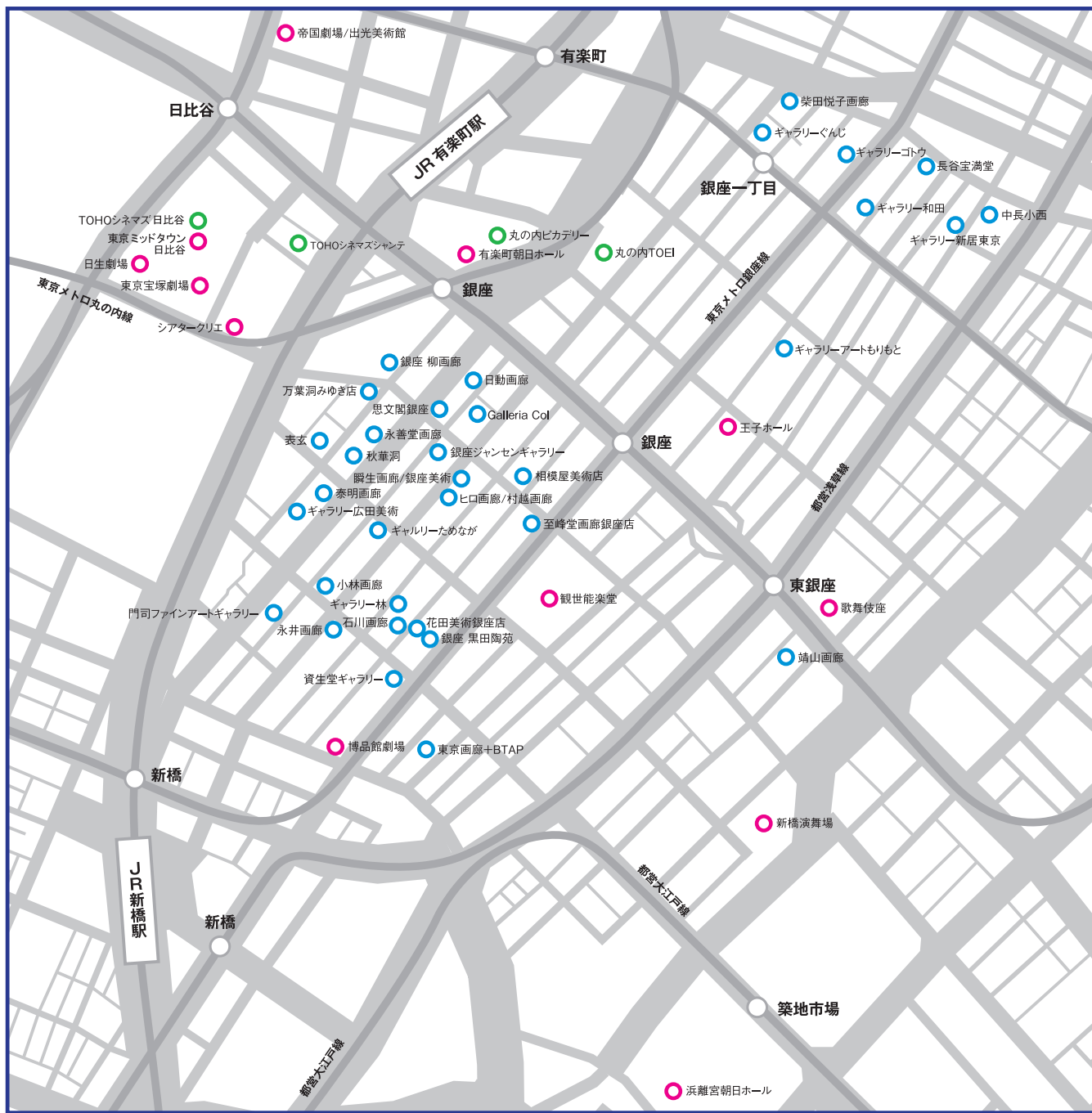
この魅力を国内外に向けてトータルに発信するために、さまざまな分野や業種が既存の枠組みを超えて集結し、東京アート&ライブシティプロジェクト(略称:TAL)が立ち上がりました。芸団協は、プロジェクト実行委員会の構成団体のひとつであり、事務局を担っています。

4月には、エリア情報を集約したウェブサイトを開設(日・英の2言語対応、今後は6言語対応を検討)。施設ごとの催し以外に、この地で育まれた歴史や文化にまつわるコラムも掲載。この地を訪れるあらゆる人々に、街を多角的に楽しんでもらえるエリアモデルへと動き始めました。

○東京アート&ライブシティ
www.artandlive.net/



- 劇場・ホール・ライブハウス
- ギャラリー・画廊
- 映画館



文化資源としての芸術団体、制作者

～実演芸術団体の就労環境改善に関する調査研究より

芸団協では、実演芸術に関わるさまざまな調査研究に取り組んでいます。2017年度は、2016年度の公共劇場スタッフを対象とした調査に続き、民間の芸術団体の制作者に焦点を当てて、就労環境に関する調査を行いました。なかでも、集団創造が不可欠な演劇とバレエに分野を絞り、女性や高齢者

が活躍できる就労環境とは、という問題意識のもと調査分析を行いました。

制作者という職業は、企画から公演本番までのマネジメントを司る役割。非常に業務範囲が広く、労働時間が不規則だったり長時間にわたることがしばしば指摘されます。

ただ、制作者個人を対象とした働き方に関

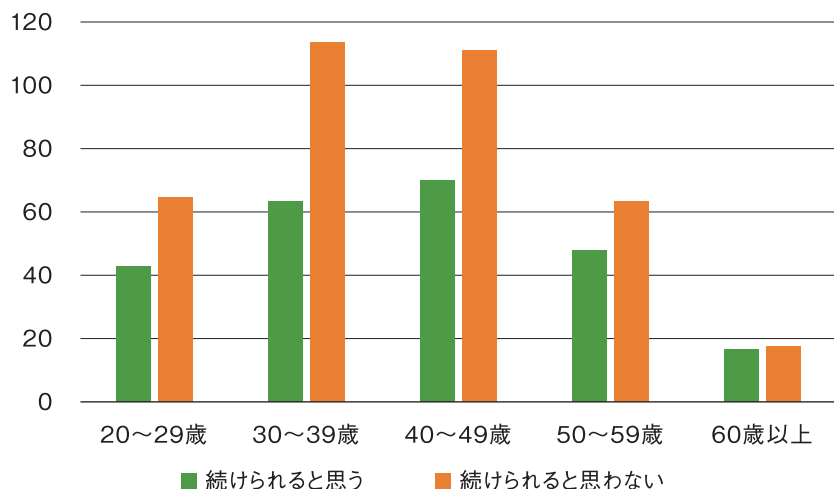
する意識調査では、回答者は男3：女7の割合でしたが、性別による意識の差は、ほとんど見られませんでした。性別に関係なく活躍できる業界であり、かつ民間団体だからこそ融通をきかせながら働き続ける工夫をしている様子が見えてきました。

インターネットや技術の発達により、多様な

形で芸術にふれることができる現代。それでも生身の人間によって演じられる実演芸術の振興のためには、芸術創造を担う団体や制作者という存在が要となります。全国各地で素晴らしい作品が鑑賞できるように、彼らを文化資源として捉え直す視点と、多方面からのサポートが期待されます。

[2016年度：公共劇場スタッフ]

育児や介護の必要性が生じた場合、今の仕事が続けられると思うか？

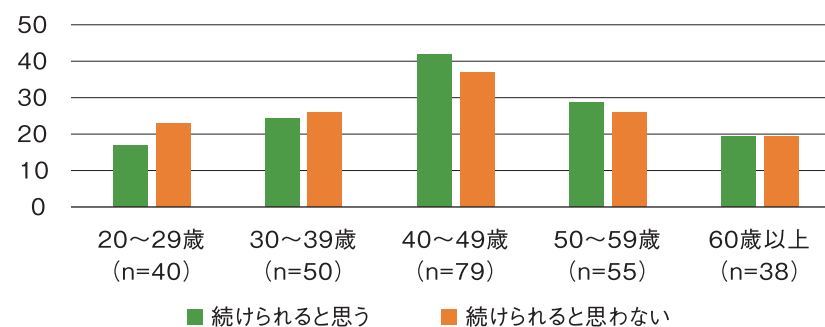


特に30代、40代では「思わない」が圧倒的に多かった。

○芸団協ウェブサイトより、調査報告書のPDF版をご覧ください。
www.geidankyo.or.jp/issue/index.html

[2017年度：実演芸術団体の制作者]

育児や介護の必要性が生じた場合、今の仕事が続けられると思うか？



「思う」「思わない」は各世代ともほぼ同数。40代、50代では「思う」が少し多いくらいだ。

■2017年度「実演芸術団体の就労環境改善に関する調査研究」概要

- 【調査対象】 ・団体アンケート…演劇・バレエ分野で、文化庁および芸術文化振興基金の助成対象となった団体（2015年度～2017年度）、公演等のプロデュース等を行う団体（演劇：353団体、バレエ：28団体）
 ・個人アンケート：上記の団体に従事する制作者、事務担当者 1,132通
- 【回答数】 団体アンケート 91通／個人アンケート 282通

豊島区から芸団協へ感謝状

7月6日、豊島区の高野区長より感謝状を頂戴しました。野村萬会長が同区の名誉区民であるご縁から、芸団協が所蔵していた芸能関連の図書資料 約4,200冊を寄贈したことによるもの。同区は、舞台芸術・演劇文化を中心に国際アート・カルチャー都市を推進しており、貴重な資料の活用に期待が高まります。



高野区長より感謝状をいただき、満面の笑みを浮かべる野村萬会長

【花伝舎カレンダー】 芸能花伝舎を拠点に展開している事業いろいろ

新宿フィールドミュージアム [SFM]2018

新宿のまち全体がアート&カルチャーのミュージアムとなるSFM月間。今年9月～11月の3ヶ月間に拡大。ガイドブック、ウェブサイト、SNS等でイベント情報を発信します。www.sfm-shinjuku.jp/

オープニングイベント **9/1 (土)** 11:00～16:00
会場：新宿タカシマヤ2階JR口・特設会場
音楽フェス「-Shin-音楽」 **10/6 (土)**
会場：新宿文化センター



ニッポンたからものプロジェクト ー 日本遺産 × Live Art ー

2018年度は全国11ヶ所で公演予定。詳細は、順次ウェブサイトにて公開します。www.takaramono-pj.jp/

8/28 (火) 18:00～ 神奈川県伊勢原市・大山阿夫利神社
[今後の予定]

山形県鶴岡市／宮城県多賀城市／石川県小松市／新潟県新潟市／滋賀県大津市／和歌山県和歌山市／岡山県倉敷市／熊本県山鹿市／佐賀県／長崎県



2017年度高岡公演より
日本舞踊・長唄

ご支援のお願い

より良い稽古環境と子どもたちに良質の芸能体験を提供し続けること。この二つは、芸能花伝舎の運営に携わる私たちの願いです。将来にわたって持続するためには、皆様のご支援が必要です。是非、ご寄付をお願いいたします。www.geidankyo.or.jp/support/

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会

● 東京オペラシティ事務所
〒163-1466 東京都新宿区西新宿3-20-2
東京オペラシティタワー11階
Tel:03-5353-6600 Fax:03-5353-6614

● 芸能花伝舎事務所
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30
Tel:03-5909-3060 Fax:03-5909-3061